

題名：右室リード穿孔に関する診断および治療戦略に関する後ろ向き研究について

当院では、以下の臨床研究を当院倫理委員会の承認を受けて実施しています。

この研究では、2002年1月から2023年6月までに当院で心臓ペースメーカーまたは除細動器のリードを右心室に植え込まれた患者さんの診療記録を用い、リード穿孔の危険因子や診断・治療戦略について後ろ向きに検討します。

本研究では、患者さんの診療情報を匿名化した上で利用し、個人が特定されることは一切ありません。研究成果は、学会や学術雑誌等で発表される可能性があります。個人を特定できる情報は一切含まれません。

本研究にご自身の診療情報を使用されることを望まれない場合、またはご質問等がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。研究への不参加により診療に不利益が生じることはありません。

研究課題名 (承認番号)	右室リード穿孔の危険因子としての心尖部留置の影響：診断および治療戦略に関する後ろ向き観察研究 (2025-20)
当院の研究責任者 (所属)	所属：横浜労災病院 循環器内科 氏名：小和瀬 晋弥
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	本研究の目的は、右室リードの心尖部留置がリード穿孔リスクに与える影響を明らかにすることである。併せて、リード穿孔症例の臨床的特徴、診断手段、治療戦略についても後ろ向きに検討し、今後の安全なデバイス植込み術および合併症管理に資する知見を得ることを目的とする。
研究の方法 (利用する試料・情報)	研究実施期間：2025年9月1日～2026年3月31日
利用する試料・情報の 該当期間	2002年1月1日～2023年6月30日
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	なし
個人情報の取り扱い	取得された情報は匿名化され、氏名等の個人が特定される情報は一切使用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp
備考	